

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和2年7月31日発行

校長 井土 満
〒190-0001
立川市若葉町4-24-1
TEL 042-536-3971
FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



短い夏休みだけど

いづち みつる
校長 井土 満

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業で始まった異例の1学期がやっと終わります。

学校での活動がなく、外出を我慢したり、毎日を家や学童で過ごしたりしてきた3か月休業期間と、学校再開後の「新たな生活様式」に沿った日々の生活は、子供たちに微妙な影響を与えています。

マスク越しの挨拶の言葉は元気がなく、目だけしかみえない表情も笑顔なのか困っているのか、教員も友達同士もつかみ切れません。大きな声を出さない、人との間隔をとるなどの「新たな生活様式」も、学校全体から活気を奪っています。今週、給食の時間に教室を回って、その様子を撮影しました。いつもの学期なら「おいしい顔して」とリクエストすると、笑顔やピースサインで応えてくれる子供が多いのですが、今学期は、表情が出てこない子供がたくさんいました。

机の間を空け、みんなが前を向き、子供同士の接触をさけるなど「密」を防ぐ工夫をしながら、遅れをすこしでも取り返すために、授業がスピーディーに、かつ濃厚にすすんでいきます。

そういう日々の生活や学校生活の全てが、子供たちには、小さなストレスの積み重ねかもしれません。

そんな中で、今日の終業式、明日からのいつもより短い夏休みを迎えます。

子供たちにどんな夏休みを過ごさせようかと、副校長と一緒に考えたとき「すこしのんびりさせたいね」という結論になりました。

各学年の先生たちには、なるべく宿題・課題を減らすようお願いしました。本当は、先生たちは復習の課題・プリントをたくさん出したかったようですし、ご家庭の皆さんからも出してほしいという要望もあったと聞いています。でも、プールもない、盆踊りもない、外出も旅行もまだまだ制限のある、たった3週間の夏休みを、宿題やプリントの毎日にするのは、子供たちには酷です。「宿題はやったの?」「早くやりなさい!!」と言わなければならない、ご家族にも酷です。3月からの臨時休業、急ぎ足の1か月半の授業、そしてまたプリントの夏休みだとしたら、メリハリのないまま、2学期を迎えなければなりません。

ただ子供たちには、宿題のあまりない「短い夏休み」を、だらだらとゲームばかり、テレビや動画、漫画ばかりで過ごしてほしいとは思っていません。ちゃんと家族でルールや時間割を決めて生活し、気力と体力を充実させながら、エネルギーに2学期を向かえるための、ちょっとした息抜き、気分転換にぜひ使ってください。

臨時休業中はできなかった、自分の苦手な克服にもう一度取り組むのもいいかもしれません。趣味や得意分野に徹底的に向かい合うのもいいでしょう。やったことのない新しいことに挑戦するのも素晴らしいことです。

ちなみに NPO 法人「子どもの生活研究所」の「暮らし力実技調査」では、生卵を黄味を壊さずに割れる子の割合は1年生で43%、6年生で75%、ぬれたタオルを正しく絞れるは1年生6%、6年生でも24%だそうです。普段の生活の中にも、挑戦すべきことはたくさんあります。

新型コロナウイルスとの戦いは、始まったばかりです。今再び、東京を中心に全国で感染が拡大しています。そんなニュースを毎日のように目にする子供たちは、言葉にはしなくとも、大人以上に心配し、不安に思っているはずです。

命の大切さ、命を守ることを第一に考え、行動しながらも、子供たちに「がんばろう」「みんなで協力して乗り切ろう」というメッセージや、「大丈夫、乗り切れる」という希望を与えられるのは私たち大人です。

仮に、2学期まで新型コロナウイルスの流行が続いたとしても、その不安に押しつぶされない、笑顔あふれる元気な子供たちを取り戻していきたいと思います。そのためにも、たった3週間ですが、充実した夏休みにして、2学期を迎えてください。